
許しのうた

蟻塚つかっちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

許しのうた

【Nコード】

N4266T

【作者名】

蟻塚つかっちゃん

【あらすじ】

本棚の上段の本を読むと頭痛がする。どうして？

これは男の「許し」の物語。

(前書き)

「許し」は本当にあるのか？何をすれば許されるのか？

これはその定義づけされていない原罪に挑む青年の物語。

若干謎解き要素があります。どうして上段の本を読むと頭痛がする
のか。

あなたは読み解けるか。

偏頭痛がする。

いつも偏頭痛がする。僕の部屋には本棚がひとつある。その茄子紺のブックシェルフは上段と下段に分かれている所謂、二段棚といわれる代物だ。正体はただのカラーボックスなのだけれど。中には漫画、小説がぐちゃぐちゃに、ジャンルだって、ミステリやエログロナンセンス、ライトノベルなどの書籍が20冊ほど十把一絡げに無造作に置かれている。そのうちの上段に入っている本を読むと頭が痛くなるのだ。これがなぜかわからない。いやわかる気がする。昔に忘却してしまったような気がする。頭が痛い。頭が痛い。なぜなのだろうか。

上段には、福本伸行「賭博黙示録カイジ十三巻」外園昌也「赤い妹」山田悠介「ドアド」外海良基「Doubt四巻」乾くるみ「Jの神話」岡崎隼人「少女は踊る暗い腹の中踊る」西尾維新「不気味で素朴な困われたきみとぼくの壊れた世界」筒井康隆「日本以外全部沈没」夢野久作「ドグラ・マグラ」丸尾末広「芋虫」駕籠真太郎「フラクシオン」太宰治「人間失格」がある。これらを読むと脳震盪を起こすように頭が響く。その残響で日常生活に支障が出る。仕事もここの一週間休んでいる。入院はしない。そもそも脳や頭蓋骨には器質的には何も障害がないとされたからだ。薬はもらったが効かない。

ついでに述べると下段の棚には、西尾維新「ネコソギラジカル下」小島あきら「まほらば十二巻」岩明均「寄生獣十巻」原作奥瀬サキ「低俗霊DAYDREAM十巻」古屋兎丸「ライチ光クラブ」滝本竜彦「ネガティブハッピー・チェーンソーエッチ」島田荘司「アトポス」おかゆまさき「撲殺天使ドクロちゃん十巻」舞城王太郎「煙か土か食い物」橋本紡「半分の月がのぼる空八巻」が入っているのだ。こちらを読んでも頭痛は起こらない。これもなぜかわからない。

それに加えて僕は何か忘れてる気がするのである。なんだろう。別に記憶喪失に陥ったわけではないだろう。多分。何かその一つの事実だけ、その事柄についてだけ忘却されたのだ。なにか……。なんだろうか……。忘らるる何か。記憶。僕の記憶の果てには何かあるのだろうか。

頭が痛くなるのならば、本を読まなくていいじゃないかと思う。でも、その記憶の手がかりが、記憶の複写物がその活字の中に存在している気がするのだ。それを見つけ出したい。見つけ出さなければ僕の人生が終わる気がする。終わる気がする。一種の強迫症状といっても過言も誇張もない。

今日はとりあえず寝るか。

頭痛で悩まされてから一週間後。僕の家の近くにはジュンク堂がある。そのほかに竹林や田圃などがあっても自然豊かだ。駅のロータリーやバス停もあって交通の便がある。僕はそのジュンク堂で購入した舞城王太郎「好き好き大好き超愛してる。」を読んで思い出したことがあった。そうだ、僕には恋人がいたんじゃないのか？ と。そうだ彼女がいた。いたんだ！

そう思い、携帯電話を取り出し、アドレス帳に恋人の名前を探した。あ……か……さ……。あったぞ！ これだ、幸さち。これだ。さちだ。僕は発見したのだ。幸の名を。そして幸に関する記憶が走馬灯のように蘇ってきた。

彼女といった遊園地、彼女との初めてのデート映画館、ゲームセンターも湖もショッピングも、ドライブだっていったんだ。彼女は自然が好きで、僕の家近くの竹林にもいった。その時彼女は喜んでくれたっけ。彼女の記憶が反芻していく。蠕動運動のように思い出していく。

でも、待てよ。

なら、彼女はなぜここにいないんだ？

幸はどこにいったんだ？

まだ、彼女について思い出せないことがあるんじゃないのか？

彼女は……。

そのときだった。

「……………助けて」

と幽かに耳を介さず脳に直接声が聞こえた。

「助けて殺さな……………ごめんなさ……………」

ととぎれとぎれ、聞こえる。

言葉が零落していく。

言葉は流動していく。

言葉が風化していく。

言葉が閉塞していく。

僕は愛すべき彼女が呼んでいる声だと思った。僕に助けを求める声だと。

それなら彼女はどこに……………？

幸を思い出し、声を聞いたのはいいが、彼女の居場所が見当もつかない。どこかに盲点があるのではないか。そうだ、こういつときに上段の本ではないか？ もう一度読んでみようか。と思い僕は一番右端に置いてある夢野久作「ドグラ・マグラ」を手に取り読んだ。この話は胎児の夢に係わる事件なのだ。夢……………まさか、この世界が夢だった。僕には幸もいなくて、夢が覚めたら胎児だった……………そんな夢才チなわけ……………はなく、頬をつねると確かな痛痒感がある。

そんなエンドではなかった。この世界は夢ではない現実だ。それは確かだ。この物語はそんな終焉をたどるわけなく……………。

……………まさか。

いやそんな。

終わり。

エンド。

終わりの終わり。

終わりの終わりの終わり。

終わりの終わりの終わりの終わり。

世界の終わり。

この世界の終わり。

この話の終わり。

……。

「……」。

僕はすべてを思い出した。理解した。認識した。認知した。すべてを。すべて。

僕は急いで近くの竹林へ走った。

そして見た。

幸の死体を。半分腐っているその幸を。

僕は取り返しのつかないことをしてしまっただ。僕は彼女をころしてしまっただ。

幸すまない。僕はなんてことを。しかもそれを忘れてしまっただなんて。どうして……。

そうだったのか僕は耐えきれない記憶を幽閉していたのか。

その背徳を。

その慟哭を。

その責任を。

その氾濫を。

その虚無を。

その告解を。

脳に響いた先ほどの声は僕が彼女を殺した時の声。耳に残る彼女

の最後の声だったのか。

そして、上段の本の頭痛のそのわけもわかった。ヒントだったんだ。やっぱりヒントだったんだ。僕は無意識のうちに分けていたんだ、その本たちを。嗚呼、僕は耐えきれない残滓を本棚の上段に隠していたのだ。上段の本に。

上段の。

上段の本たちの。

上段の本たちの終わりは。

上段の本たちの終わりはすべて。

上段の本たちの終わりはすべてバッドエンドだったんだ。僕はそれを恐れていた。怖かった。バッドエンドが怖かったのだ。主人公がバッドになる話がこわかったのだ。僕はバッドエンドになりたくなかった。バッドエンドの定義なんてわからない。でも、僕はバッドなんかになりたくない。幸せになりたかった。終わりはバッドにだけはしたくなかったのだ。終わりはバッドにだけはしたくない。

この物語の。

僕の物語の。

下段はすべてハッピーエンドなのだ。

だから頭痛はしなかった。

ハッピーになりたかったからだ。

幸せになりたかった。

幸。

幸。

幸。

幸。

彼女の名前は幸なのだ。

そして僕は自首した。彼女に贖罪するために。この物語をハッピー

「エンドにするために。決して自殺はしない。生きて罪を償う。僕が起こした物語を無事終わらせるために。そして僕は留置所でこの物語を書いている。僕は無機質に書き続けている。これから書き続けていく。小説を。ハッピーエンドの。この世界にバッドエンドはいらない。誰も死なない物語を書き続ける。」

そして、僕の小説が誰かに笑顔を与えるために。笑顔が笑顔を生む世界に。ハッピーエンドがハッピーエンドを生み続ける世界に。これはテロルなのだ。僕のテロル。このテロルを、この幸せなテロルを今はいない「幸せな」君に捧げるために。僕は書き続ける。これが「許し」だと思うから。

誰が何言おうとこの物語は、そして僕の物語はハッピーエンドだ。

【了】

(後書き)

本当に彼は許されたのだろうか。自己満足とは僕は思わない。許しというのは、自分のこころの奥底にあるんだろう。幸せと同じように。

ハッピーエンドに囚われ、そしてその中に許しを見つけ監獄をテロルによって壊す。

僕にも何か許されざる罪を持っていて、それを「許し」てほしいのかもしれない。

注意です。文中のハッピーエンド・バッドエンドの概念・定義は個人的なものです。あしからず。

最後に。読んでくれた人びとに幸せを。そしてありがとう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4266t/>

許しのうた

2011年6月14日02時25分発行